

## サイエンスカフェの概要について（事後報告）

1. 開催日時：平成30年7月19日（木） 20時30分～22時30分

2. 開催場所：Shot Bar 周太郎（大阪府豊中市曾根西町3-5-33）

3. 関係団体等：なし

4. 役割

コーディネーター：中村征樹（大阪大学准教授・日本学術会議連携会員）

ゲスト：伊藤雄一氏（大阪大学クリエイティブユニット准教授）

5. 概要：

今回のサイエンスカフェは、人とコンピュータを繋ぐ部分であるインタフェースに着目し、「人とコンピュータの未来の関係」をテーマに行われた。ゲストの伊藤氏はインタフェース研究を「アンコンシャス」「サーフェス」「タンジブル」の3つの観点から整理し、自身の研究成果を含む近年の世界の研究動向について紹介した。センサーを組み込んだ椅子によって、座っている人の状態をモニタリングする試み。光ファイバーの「毛」を用いたインタフェース。組み替えることのできるブロックを用いたインタフェース。その他、創造性を実感させられる数多くの試みに、参加者からは質問が相次いだ。また、ブロック遊びによって子どもの心理を明らかにしようとする心理学研究に、センサーを備えたブロックを用いるというような、興味深い異分野融合の事例も紹介された。

インタフェース研究における多くの事例紹介をうけ、これらのインタフェースが実際に社会に広まった場合のさまざまな可能性についても議論が盛り上がった。人とコンピュータのインタラクションが人々の出会いや助け合いを支援して、社会の幸福を増進する未来が提示された一方で、人とコンピュータの繋がりが深くなるにつれて、ミスや悪用の影響が大きくなったり、コンピュータによって人が不本意に管理・統制されたりといった危険性も提起された。

全体を通して、インタフェース研究の独創性と先進性、人とコンピュータの未来への希望が印象的な場となった。

6. 参加人数：

講演者等：3名

その他の参加者：19名

7. 特記事項：

会場となった「Shot Bar 周太郎」には、サイエンスカフェの趣旨に賛同いただき、参加者に1ドリンク以上の注文をお願いすることで会場を無償で提供いただいたほか、常連客へのイベントの告知にも協力いただいた。また、ゲストのドリンクについてサービスしていただいた。